

(様式第4号)

上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

1 審議会名	上田市公立大学法人評価委員会（第1回）
2 日時	令和3年5月25日 午後1時から午後2時40分まで
3 会場	長野大学4号館3階教授会室（Web会議併用）
4 出席者	今井裕委員長、鳥居希委員長職務代理者、田村照子委員、城下徹委員、佐藤明生委員
5 市側出席者	小相澤政策企画部長、鎌原学園都市推進室長、宮原学園都市推進担当係長、倉澤主査
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開 理由：
7 傍聴者	なし 記者 2人 ※説明者として、公立大学法人長野大学関係者出席
8 会議概要作成年月日	令和3年 5月28日

協 議 事 項 等

1 開会

2 委員紹介及び委員長等の選出

3 会議事項

(1) 令和3年度公立大学法人長野大学 年度計画について（資料2）

○資料に基づき、法人が説明

（委員長） 各担当から説明をいただきました。ありがとうございました。
令和3年度年度計画の総括として、理事長から大学運営について、学長から教学について、コメントをお願いしたいと思います。

（学 長） 今、報告しましたように、前年度の課題を受けて、具体的に数字を示しながら、解決に向けて、改善していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（理事長） 長野大学に来てから、もちろん評価委員会にいたときから、課題を感じていた。
明らかに完成に向けた進展はあると考えている。以前、委員から指摘がありました「ジェンダーバランス」について、一気には解決できない、かなり難しいが、今回、理事会に女性理事を2名に入っていていただいて、随分変わった。そういう意味で段階的に進めている。

一番大きな課題は、理工系学部プロジェクトが進展していないことを評価委員会でも指摘していたが、なぜ、そうなっているのか、検証している。

要するに財務的な問題が一番大きい。例年報告する財務状況は、一見良さそうに見えるが、インフラ整備等が入ってくると、途端にひっ迫してくる。

内容はご存知かと思いますが、そういう意味では、委員からも指摘があったが、具体的な内容が示されていない。たぶんそれはそういうことだと思う。

それを踏まえ、学部再編計画、新学部設置を、もう一度考え直さないと具体化は進展していかない。それに向けても、今後、市と連携しながら、学内のコンセンサスを進めていきたい。

前年度から、運営体制のガバナンスが効いていないと指摘されている。その理由も段々分かってきて、流れをストレートに落とせるような体制を構築して、実効的に機能する

かはこれからですが、改善に向けて進めている。委員の皆さんから、忌憚のないご指摘いただければと思います。

(委員長) この件については、この評価委員会で、令和2年度の事業評価を行うに当たって、令和3年度の計画を掴んだうえで、細かい点は評価の中で、色々議論をあると思いますので、今日は、何か各委員から質問や意見などがありましたら、お聞きしたいと思いますですが、いかがでしょうか。

(委 員) 上田市の公立大学ということの役割を含め、全国の高校から優秀な学生を集めていくということがあると思います。

もちろん、市内や県内の優秀な学生を集めることもあると思います。それから、卒業させた後の問題としては、どこにターゲットを絞るのか、国が抱えている問題に、どこにどういう風に対応していくのかという話と、上田市や長野県の就職人材として、どう考えていくか、両方睨んでいると思います。そういった大体の方向性は、教育の質にも関わってくるし、学部編成の方向性にも関わってくる。

県内だけを考えるのか、全国のレベルに優秀な人材を公立大学として輩出していくのかことの両方の視点があると思います。

今日でなくても良いので、学部編成や大学院、研究開発を進めていくプロセスの中で、そこで育った人材を、どこへどういう風に供給しようとしているかということを頭に置きながら、進めていただくと、全体がブレないと思う。

公立大学ということで、多少、気になっていまして、国立大学が考えることと、私立大学が考えることと、そこが少し違うというところが、特色でもあるし、有効なところでもあるし、その他の視点で、教育の質の内容が大きく変わらと思うので、そこを指摘しておきたいと思います。

(委 員) 資料2の12ページに教員の評価の部分と職員の資質向上に関する取組のことで、大きくまとめていただいています。今年度中には、特に職員の評価方法や基準などが整いますとのお話がありました。去年、どのような経緯で、動いてきているのか。そして、今年、本当に実施できるのか、というところを注目していきたいと思います。

昨年の評価のところ、その点が明確に見えることを期待したいと思います。

(委員長) 各項目についても、まだ令和2年度の状況を詳細にお聞きしていないが、大学側は令和2年度の実績の土台の上で、令和3年度計画を立ててきています。

そのベースとなる令和2年度の実績については、次回の評価委員会の中でお話しをお聞きしていきたい。委員いかがでしょうか。ジェンダーバランスのことについて、理事長から説明もありましたが。

(委 員) 進展されたということで、お話しした甲斐があったと思います。

理事会と経営審議会の女性割合をインターネットで拝見させていただいて、理事会は女性2名となられたということで、経営審議会の方は、まだ全員男性であると理解していますが、それで合っているでしょうか。

(法 人) 審議会の委員を変えるタイミングに至っておらず、変えることができない状況となっている。委員の交代の時期に来ていないため、対応できていない。時期が来れば、積極的に対応していきたい。

(委 員) 令和2年度の評価が終わってからでは遅いと思うので、2点ほどコメントしたい。
資料2の11ページの国際交流に関する目標について、海外の大学との協議が、協議をしている時間が以前からずっと続いていて長いと感じています。実態として、コロナがあるので、それは仕方がないが、その間、学生の時間は過ぎていくので、代替案として、例えば、オンラインで海外の大学の講義を受けられるようなサポートは、ポリシーを変えなくてもできることもあると思いますので、ご検討いただくと学生も時間を有効に使えると思います。

特に、事務関係の効率化にも関係してくるが、デジタルトランスフォーメーション(DX)に関しては、様々なところで話が出てきており、だいぶ時間がかかることだと思います。

何かのシステムを整えるとかいう以前に、働いている人たちのマインドをシフトしていくところでだいぶ時間がかかると思いますので、もし計画に入れられないとしても、早めに対応された方が良いと思います。

(委員長) その他はいかがでしょうか。

(委 員) 公立大学として、地域のニーズに対して、どう答えるネタがあるのかという点について、アンケートも取られているとお話もありましたので、これまでもそういう蓄積があったうえで、されていると思いますけれど、例えば、理工系学部というのは、新しいもので、無い物に対して、周辺の方というのは、見たこともないということになる訳で、どうやって発掘し、或いは捕まえていくのか。

今後の判断において、大事ではないかという印象を持ちました。

(委員長) ありがとうございます。各委員のご指摘については、事務局でまとめていただいて、評価の中でまた確認していきたい。

(委 員) 財務諸表の件について、年度を跨いでの比較表ができていると説明がありましたが、時系列でどう変化していったのか、見ていかなければ、評価できないという話が以前ありました。次回の評価委員会までに、時系列の比較表を見させていただきたい。

(法 人) 長野大学ホームページに掲載していますので、後日、対応したい。

(委員長) 城下委員からも指摘がありましたが、先ほどの説明の中で、新規に取り組む、或いはこれから取り組むという項目がいくつかありますが、それについては、それに関わる資料を評価委員会に提出してもらいたい。

それでは、これで(1)は終了し、(2)業務実績に関する評価方針について、協議しますので、恐縮ですが、このことについては、評価委員のみで協議したいと思いますので、長野大学の皆様にはご退席をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

(2) 令和3年度公立大学法人長野大学の業務実績に関する評価方針について

(委員長) それでは、会議事項(2)業務実績に関する評価方針について、事務局から説明をお願いします。

○資料に基づき、事務局が説明

- (委員長) 今年度の評価方針について、事務局から説明がありました。このことについて、何か今日の段階で、共通認識すべきしておく必要があるものがあれば、ご指摘いただきたい。
法人の自己点検と評価が同じなら、それほど、書き込みは出てこないだろうとのことで、勿論、必要なことは書いていきます。
実際、やっていかないとわからない部分もあると思いますが。
- (委員) 見込評価は、結局6年間の中期計画の4年間分で見込として、評価してしまうということか。先ほど、説明を受けた年度計画を見ても、例えば、理工系学部の設置とか、或いは、新たに設立された大学院が本当にうまくいくのか、どうか、など、この2年間というのは、ものすごく中期計画との関係において、重要な2年間なので、その2年間なしで、見込みの評価ができるのかということ、という理論でできるという話になるのか。これが中間評価なら、理解できるが、教えていただきたい。
- (事務局) 資料4の1ページをご覧ください。法人による自己点検のなかに、今までの4年間、何を行ってきたのか、そして、今後の2年間で何を行うのか、ということを大学の方で記入いただく予定です。例えば、学部学科再編であれば、この2年間でやっていくことを御記入いただき、それに対して、評価いただく流れで考えております。
- (委員) 実績があるか、ないかはわからなくて、計画があるだけであって、達成できることを前提に評価するということで良いか。
- (事務局) 現段階4年間の実績の段階で、6年間を見据えてどうなのかという評価をいただく見込評価ということで、これは法に則って、やらなければならない評価となります。
これまでの流れを次の中期目標につなげていくような、つなげていけるのかどうかなど、そのような視点を含めながらの評価いただくことになります。いずれにしても、2年間残されたなかでの現状の評価になりますので、果たして大学が言っているとおりの今後2年間の取組が見込めるのか、その点も確認していただきながら、6年間が終わった段階で、こうなっているだろうというような見込みを含めての評価をお願いしたいと思います。
- (委員) ご説明のなかにこのタイミングでやらなければならないと説明がありましたが、これは法律で公立大学法人は、このタイミング、今までの4年間のなかで、6年分の評価をして、表現も見込み評価しなければならないと定まっているということでしょうか。
- (事務局) 見込評価というのは、通称というかたちになりますが、地方独立行政法人法のなかで公立大学の中期目標の終了年度の前々年度に行うという形となっており、今回、このタイミングでお願いすることになります。完全に6年間終了した段階でも改めて、全体評価をいただくタイミングも法定上の手続きとなります。
- (委員長) 今後も評価の具体的な議論の中で、意見交換をさせていただきたいと思います。他の委員もよろしいでしょうか。
それでは、今後の評価委員会の進め方について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 来月6月下旬に業務実績報告書とエビデンス資料をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

次回7月1日の評価委員会につきましては、大学の業務実績報告書とエビデンス資料に対して、ヒアリングを行っていただくかたちとなりますので、資料が届きましたら、一度お目通しいただければと思います。

(委員) 6月下旬に報告書とエビデンス資料をいただいて、もし、これが6月30日だった場合、7月1日までには見ることはできないと思いますが、いかがでしょうか。6月下旬というのも6月20日とか、少なくとも1週間はほしい。今回、年度評価だけではなくて、見込評価もあって、かなりの量だと思うので、そこは考えてもらいたい。

(事務局) 資料3裏面をご覧ください。日付について明確にご説明いたします。予定では6月19日か、その翌週にはお送りできるように考えております。

(委員) 大学に自己評価をされる方達にお願いしたいのが、何をやったではなくて、それをして、どのような成果があったのか、目標を達成できたのか、という点を書き込んでいただくようにお願いしたい。

(委員長) その指摘事項については、今までも何度も頂いて、やりましたという項目が多かったので、その結果どうなったのかという点が足りていなかった。大学も承知のうえだと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

エビデンスとして、出た資料がある意味、全てということになります。それがなければ、エビデンス自体がないということになる部分もあるかと思えます。

城下委員のご指摘のとおり、各項目に目を通すのも大変時間がかかり、大変ですが、何となく今までの委員会の中で、それぞれの分担みたいな分野がなんとなく感じているところであって、教育については田村委員が専門で、ビジネス視点は、城下委員、ジェンダーや運営については鳥居委員としますので、それぞれの自分の分野はしっかりと見ていただきながら、互いに補いながら、お願いしたいと思います。

佐藤委員には、これまでの幅広いご経験と知識の中で、新しい視点からの評価のあり様についても議論して頂ければと思います。今日の指摘の中でも、気付かなかった点もありまして、是非、お力添えを頂きたいと思えます。よろしくお願いいたします。

実際、資料が届けば、色々な疑問も出るかと思えますので、事務局に問い合わせてください。よろしくお願いいたします。

今日はこれで終了とさせていただきたいと思えます。議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

5 閉 会

(事務局) 委員長ありがとうございました。初回ということでございました。これまでの経験を踏まえて、大学側にもコメント、改善する点について、事務局としても申し入れてまいります。次回からどんな内容でというところで、より一層鋭い視点で、改革を推進していかないといけないと思えますので、よろしくお願いいたします。

それでは以上を持ちまして、第1回評価委員会を終了とさせていただきます。

お忙しいなか、ありがとうございました。